

## 2018年度方針（案）

### 1. 地域でできる戦争非協力活動

朝鮮半島情勢に対応すべく、これまで追求してきた「地域でできる戦争非協力」活動を推し進めます。日本海での日米による空中給油共同訓練支援の主軸が「小牧・美保空中給油支援体制」となる以上、私たちの活動の中心点が小牧基地になることはさげられません。日本海での海上・上空訓練がどれほど相手国の脅威を与えるか、一瞬たりとも忘れるわけにはいきません。愛知県や2市1町（春日井市、小牧市、豊山町）への申し入れを、以上の観点からもくり返し行う必要があります。

### 2. 軍備拡張・軍需産業に対する取り組み

安倍政権の下で、武器輸出の解禁が行われ、安保健法（戦争法）の成立、発動が行われる中、自衛隊の軍備の増強が図られています。護衛艦「いずも」の空母化、すでに配備が決定されているF35Aに加えてF35Bの導入、地上配備型イーゼス・アショアの導入などです。今や防衛費は5兆円を超え、自衛隊はまさに「外征軍化」する戦力を持ちつつあります。憲法9条を空文化する自衛隊の軍備拡張に反対する運動は、改憲に反対をする運動と両輪として取り組む必要があります。

### 3. 改憲情勢

「国民投票で否決されても、自衛隊が憲法違反になるわけではない。安倍政権が否定されるわけでもない」との安倍発言は、とにかく改憲に向けた国民投票を安倍政権でやり切る、という決意表明と理解します。何をテーマとするかは公明党との関係、国民的反応を見ながら決定するとしても、安倍首相としては、自衛隊明記で勝負したいが、「お試し国民投票」でも最初はいいか、と妥協する可能性もある。それは「改憲反対、国民投票反対」の声がどれだけ大きくなるか、に左右される。改憲発議をとめるために、当面、3千万署名をガンバリ抜きましょう。

### 4. 沖縄基地建設反対運動をめぐって

95年9・4事件（少女レイプ事件）以来、沖縄が主要なテーマにならなかった年は、不戦ネットにはありません。現地に行くこと、この地域で沖縄への関心を広げること、この二つは車の両輪です。2・4名護市長選の敗北を踏まえ、沖縄地方選挙に関心を持ち続け、決意主義としての「あきらめない」ではなく、新基地建設の政府にとっての困難さを自覚し、政府に基地建設断念を押し付けるまでやり続けます。

「島嶼防衛」として南西諸島で進められている自衛隊配備にも注視しなければなりません。

## 5.本州在日米軍基地への取り組み

1で述べた情勢を踏まえ、「小牧・美保」に関係する海兵隊岩国基地、空軍横田基地、空軍三沢基地での反対運動との連帯を強め、現地からの講師による講演会や、現地への派遣を追求します。沖縄米軍、とりわけ海兵隊にとって、米軍再編の中から生まれた本州への「訓練移転」は願ったりかなったりであり、かつ朝鮮半島にもっとも近い地域での訓練であることを注視する必要があります。

## 6.1 9年天皇退位・即位、20年オリンピック

私たちは、16年8月から17年6月にいたる退位新法成立の中にハッキリとアキヒト天皇政治を見ることができました。「強制ではなく、自発的に」がアキヒト政治の極意であったと理解します。20年の7月24日のオリンピック開会式では新天皇による「開会宣言」が予定されており、準備がすすまられています。準備が進むほどに異論や批判が自己規制され、やがて完全な思考停止状態の中で国民統合が完成することになります。これは海外派兵の国民的基盤ともなります。不戦ネットは20年にいたる過程で異論をニュースなどで保証していきます。

7.朝鮮民主主義共和国の核開発、ミサイル開発に対して、安倍政権は圧力一辺倒でアメリカと共に戦争を煽っています。朝鮮半島の分断の責任は、日本の侵略・植民政策にあり、また戦後も韓国の軍事独裁政権を支持し、朝鮮に対して敵視政策を続けてきた経緯を考えるならば、日韓連帯運動は取り組むべき運動だと考えます。

## 8.協力諸団体との連携

以上の方針を実現するため、従来から協力関係にある人達との連携を続け、共に奮闘します。